私の考える学校づくり

世田谷区立明正小学校 校長 臼井潤一

子どもが主役の学校づくり

責任

子どもたちが毎日、目を輝かせて登校できる学校は、どんな学校でしょうか。

・「よくわかる」「できるようになった」「もっとやりたい」と意欲的に取り組める学習 ・・・〔知〕

・「友達が好き」「いじめや仲間外れは絶対しないよ」と一人一人が認め合える心で生活・・・〔徳〕

・「運動するのが大好き」「休み時間は外遊びをするよ」と健康で元気な体・・・・・・・・・〔体〕

それは、〔知・徳・体〕のバランスがとれた子どもたちの学校です。そんな学校が、子どもたちの思いや願いを実現でき、「子どもが主役の学校」だと考えています。そして、学校教育の評価は、「子どもの変容で勝負」したいと考えます。子どもの姿が見える学校・学年・学級経営に全力を尽くす教師の教育内容や結果については、校長が全ての責任をもちます。

そのために、学校運営上の判断基準の第一は、常に「それは子どもの幸せにとってどうなのか」を置きます。第二に「それは、保護者、地域にとってどうなのか」そして、「教職員にとってどうなのか」の順で考えます。全教職員が協働して、子どもたちの成長を喜び合える学校づくりを目指します。

教職員が高め合う学校づくり

信頼

現代のように変化の激しい社会にあっても、学校は組織的・計画的に教育を行うという基本構造や、同年齢の子どもたちに集団的な指導を行うという特色をもった教育の場であることは変わらないと考えています。ですので、一斉型の指導も重要な指導法だと考えています。

しかし、知識や技能は日々時代遅れとなり、一度獲得した知識や技能を大事に保持していくことだけでは到底済まなくなっているのも現実です。私たち教師も同様で、過去の経験や勘に頼ったり、教育の不易の部分にだけを固く信じたりしているばかりではいけないのです。今、私たち教師自身が新しい教育の在り方を考え、不断のリフレッシュによる自己変革が必要だと考えています。一般の社会が生涯学習時代に入ったと言われていますが、教師にはより一層の学習が要求されています。キーワードは、「真摯に学ぶ」です。教職員自身が、子どもと共に学び合う姿勢をもって、児童理解、授業改善に積極的に取り組みます。

子どもも教職員も互いに信頼し合い、生き生き活動する学校づくり「チーム明正」を目指します。

地域とともに子どもを育てる学校づくり

誇り

子どもたちに社会の変化に対応できる資質や能力を育てるべき学校が、最も閉鎖的で変化に乏しいという声を聞きますが、一面の真理をついているといえます。学校が聖域であり、学校で全てが解決処理できたり、学校だからといって、許されたりしていた時代から、監視とも言うべき社会一般の厳しい目にさらされる時代へと変化してきたのが現実です。見方を変えれば、保護者・地域社会からの学校教育への強い期待の表れといえると思います。

明正小学校は、平成 24 年度より「地域運営学校」の指定をうけており、今年度も指定は継続です。同時に学校関係者評価委員会よりの適正な評価報告をいただいて、公開性の高い学校運営に努めています。このことは、一朝一夕にできたことではなく、保護者・地域の方々のご協力と、協働の重要性を認識した教職員全体の長年にわたる努力の成果であると誇りに思っております。

学校は、教育の場であると共に、広く地域住民に開かれた場であることが求められています。その中で、子どもが主役の学校教育の推進は、保護者や地域の方々との協働なくしては成り立たないのは当然の事です。ＰＴＡも町会・青少年地区委員会も、子どもたちを主役として活動しているので誠にありがたいことであり、学校教育とは互いに連携し合い、より良い関係をつくることが大切なことだと考えています。

そのために、教職員の積極的な活動が重要となります。日頃から学校にいらっしゃるＰＴＡや地域の方々に「ありがとうございます。ご苦労さまです。」と感謝の気持ちをもって接している教職員の姿勢に対して、「先生方いつもご苦労さまです」と言う返礼があるのが嬉しいのです。

世田谷区の地域運営学校としての誇りをもって、より開かれた学校づくりを目指します。